

環境研究の基盤整備

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 各モニタリング事業やデータベースの整備、環境資料の長期保存、希少種や絶滅危惧種の系統的保存など、多くの労力と予算が必要な一方、直接論文などの研究成果に結びつきづらい課題であるが、国立環境研究所でしかできない事業であり、こうした研究者にも高い評価をしたい。【事後】
- これまでに蓄積されたデータを作られているために今年度も大変多くの科学成果が出ていることがわかる。多くのデータを公開して国内外で利用されていることは大変重要と思う。【年度】
- 継続的なモニタリングにより二酸化炭素の増加率や森林吸収量の変動など重要な新たな知見が得られている。また、二枚貝などの試料収集・保存、保存検証など重要な課題も実施されている。【年度】

今後への期待など

- 環境データへのDOI(デジタルオブジェクト識別子)付与は、オープンサイエンス対応として重要な作業であり、環境研究におけるオープンサイエンスの類型や戦略に繋がる先進的な取り組みになる可能性が高く、いい成果は発信していただけることを期待する。【事後】
- 環境試料の長期保存については、2か所に同じ試料を保存するようなバックアップも考慮する必要があるのではないか。【事後】

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 遺伝資源保存を評価していただきありがとうございます。生息域外保全に直接的に貢献できるよう、次期からは生殖細胞の保存に注力していく予定です。
- ② データの公開に関して今後一層充実させ、国内外で活用していただくことを目指します。
- ③ モニタリング、試料収集・保存、保存検証に関してご評価いただきありがとうございました。今後もこのような取り組みを継続して参ります。
- ④ 環境データへのDOI付与をご評価いただきありがとうございます。今後もオープンサイエンスに対応した取り組みを推進していきます。
- ⑤ 主として地震による停電リスク分散の観点から、つくばから離れた地域にバックアップ保存機関を持つことが望ましいと考えております。予算面でこれを実現することが困難であるなか、東日本大震災での経験を教訓とした停電対応や、液体窒素保存の無停電時頑健性について知見を積んだところです。